

2015年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数 39 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	○ あり ● なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	

総評

「倫理、政治・経済」出題再開 4 年目であるが、出題内容および形式に大きな変化は見られなかった。「倫理」から 50 点分（解答数 19）、「政経」から 50 点分（解答数 20）と均等に出題され、「政経」も「政治」と「経済」の各分野から均等に出題されている。どの分野も、基本的には単独科目の「倫理」および「政経」と共通の問題が出題されているが、今年度は初めて「政治」分野でオリジナル問題が 2 問出題された。一方で、「倫理」分野でのオリジナル問題は出題はなくなった。「倫理」分野では著作の読み取りや趣旨合致問題が、「政経」分野では資料分析問題が今年も出題されており、言葉を覚えるだけでなくきちんと理解した上で、読解力や分析力など総合的な力が試されていることに留意したい。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	社会正義に関する会話文を素材に、現代社会の諸課題を総合的に問う。	14 点	国際社会の諸課題・レヴィンの叙述・正義論・資料問題・カミュの著作読み取りの順に出題。正義論ではプラトン・ミル・ロールズが問われているので、時代を超えて同一テーマで思想家を整理しておくことも重要である。
第 2 問	困難の克服をテーマにしたリード文で、東洋思想と日本思想を総合的に問う。	18 点	日本の古代思想と賀茂真淵・最澄・ブツダの四諦説・日本の近世思想・『論語』・日本の近代思想・趣旨合致問題の順に出題。日本思想では林羅山・安藤昌益・二宮尊徳・柳田国男などの正否が問われた。
第 3 問	理性と科学技術との関わりをテーマに、西洋思想を総合的に問う。	18 点	聖典の内容・ベーコンの著作・社会主義思想・コントの思想・カントの思想・プラトンの著作読み取り・趣旨合致問題の順に出題。社会主義者としてオーウェン・フーリエ・バーナード=ショウが問われた。
第 4 問	議会制民主主義をテーマにしたリード文で、政治・経済全般を総合的に問う。	14 点	寡占市場の特徴・国家の三要素・主要国の選挙・日本の予算・主要国の社会保障・議会のルールの順に出題。選挙と社会保障に関しては資料読み取り問題であるが、背景知識が必要。
第 5 問	人権に関する会話文を素材に、政治分野を総合的に問う。	18 点	非嫡出子の相続問題・人権に関する出来事の時代整序・表現の自由・社会権・権力の監視・積極的差別是正措置・公務員制度の順に出題。時代整序問題で 2014 年の出来事が出題されたのが特筆される。
第 6 問	オリンピックを素材に国際社会の諸問題を総合的に問う。	18 点	サブプライムローン問題の年代・経常収支の内訳・BRICS・経済成長率の国際比較・モスクワオリンピックと国際政治の関係・企業活動のグローバル化・市場機構の順に出題。経済成長率は資料問題であり、背景知識が必要。